

## 日本熱物性学会 2008 年第 1 回役員会報告 (HP 版)

日時：平成 20 年 1 月 26 日 (土) 14:00~17:00

会場：キャンパス・イノベーションセンター2 階多目的室 3

### 主な議題：

#### 1. 新旧会長挨拶

牧野前会長より開会の挨拶があり、本日引き継ぎと申し送りをしたい旨お話があった。続いて大西新会長より第 29 期学会運営への抱負などが述べられた。

#### 2. 新旧役員紹介

新旧役員の自己紹介があり、役員名簿の確認が行われた。

#### 3. 前回議事録確認

高橋前事務局担当より前回議事録について訂正箇所の説明がなされた。

#### 4. 第 28 回日本熱物性シンポジウム報告

杉山実行委員長の代理で山田実行委員より第 28 回日本熱物性シンポジウムの総括と会計報告があり、実行委員会を代表してご参加いただいた皆様、ご協力をいただいた皆様に御礼を述べられた。札幌国際プラザコンベンションビューローより開催協力をいただき、敷島製パン株式会社、北海道コカコーラボトリング株式会社、山田悦郎先生よりコーヒープレイク等のご提供をいただいたこと、関信弘先生よりご寄付をいただいたことについて披露され御礼を述べられた。講演件数は 103 件、参加総数は 183 名、懇親会参加者 100 名、プレシンポジウムの参加者は本学会員 45 名程度、一般市民からの参加はゼロであったことが報告された。特別講演会は約 40 名程度の参加があった。ベストプレゼンテーション賞については今回初めての試みで発表と表彰を懇親会で行ったことが説明された。シンポジウム収支決算について坂下実行委員より報告があった。

#### 5. ATPC'07 会計報告

藤井 ATPC2007 組織委員長より、ATPC2007 の収支決算報告があった。会計監査は森英夫先生、深井潤先生に依頼し完了していることが報告された。

#### 6. 覚書の確認

荒木規約等整備担当に代わり高橋前副会長より覚書の修正箇所について次の説明があった。すなわち、< 7 > 財政的基盤 2 .( 3 ) 会員名簿、について学生会員への無料配布は廃

止すること、同(5)外国への送料、について船便と航空便もさほど送料に違いがないために、航空便のみにするがEMSの場合については有料とすること、<8>支出2.(3)について編集委員長は毎回役員会に出席しなければならないために、編集委員長にも役員会出張旅費を毎回支給したい旨説明があった。また、7ページ<7>財政的基盤2.(4)に「第8回アジア熱物性会議論文集 10000円」を追記することになった。

以上覚書の変更は承認され、一部改定日付を変更し覚書は改定された。

## 7. 平成19年活動・決算報告

高橋前事務局担当より平成19年活動報告ならびに収支決算報告の説明があった。なお本活動報告は簡略化された形で会誌2月号に掲載される旨説明があった。余剰金が100万円程度あるが、法人化準備金として特別会計の郵便貯金に記載したこと、事務局移行に伴って法人化準備金の利息も合わせて郵便貯金に積み立てたこと等が説明された。第28期は会費未納者への通知を徹底したために会費収入が多くなっており、また論文集等売却収入も多くなっていると述べられた。一方、支出では会誌印刷費がページ数、カラーの増大により多くなっていることや、当初8万円の予算を計上していたホームページ関連については山田広報委員長のご尽力により契約容量を変更せずに前年と同額で済んだこと等が報告された。また残高証明について説明がなされた。細野監事、佐藤監事より監査報告があった。

## 8. 第28期から第29期理事会への申し送りについて

牧野前会長より第29期理事会への申し送りが行われた。執行部はシンポジウムを学会の第一の事業として考えなければならず、2011年の熱測定討論会とのジョイントやKSTPとの連携について検討しなければならないことが申し送られた。研究分科会は盛んに行われるようになったが、大学講義の内容を交換するような教育に関する懇話会があっても良いのではとの提案がなされた。また、この先10年を見据えて例えば新編熱物性値測定法のような出版物の準備委員会みたいなものを作っても良いのではないかと、などの提案もあった。

## 9. 平成20年事業計画

大西会長より第29期活動計画について説明があった。今年度の総会、役員会の予定が説明され、日程について了承された。「マイクロ・ナノスケールの熱物性とシステムデザイン」および「建物外皮の熱物性とシステムデザイン」の2つの研究会について活動延長の申請がされていることが報告された。また、創立30周年企画事業として、創立者等との談話会の開催ならびにその準備委員会の設立について説明があった。

## 10. 平成20年予算案

高橋前事務局担当より第29期収支予算の説明があった。第28期決算5.予備費および

第 29 期予算 7 . 予備費に記載ミスがあり訂正された。

会費収入等、第 29 期予算については前期の予算と決算を考慮して計上しており、支出については、新しい研究会の設立や先に説明がなされた 2 つの研究会の活動延長を考慮して支出の部 2 . 事業費 研究分科会活動費を 75 万円に訂正し、1 . 事務費 役員交通費を 65 万円に訂正したい旨が説明され承認された。

#### 11. 第 29 回シンポジウム準備状況報告

大久保実行委員より次期シンポジウムの準備状況が報告された。現在、実行委員が 15 名程度集まっているが、もう少し集めたいという意見が出された。ホームページを慶應大学、企業展示については産総研、JAXA、論文集を玉川大学で分担していること等が報告された。

#### 12. 第 30 回日本熱物性シンポジウム開催地について

高橋前副会長および藤井理事より第 30 回日本熱物性シンポジウムの開催地について説明があった。米沢が候補地になっているが、日本熱物性学会の 30 周年事業とリンクして開催するには、会場・地理の面で不安があるという意見が出された。

#### 13. 研究会活動報告

藤野オーガナイザーより「マイクロ・ナノスケールの熱物性とシステムデザイン」研究会の活動報告が行われた。60 人の参加登録者がおり、4 回の講演会を開催し、シンポジウムで OS を行った。研究会の継続意見が会員から多く寄せられており、年 4 回の研究講演会の開催、OS としてシンポジウムに参加し、ハンドブックのような形で情報発信等の活動計画が説明され研究会活動延長の申し出が行われ、承認された。

吉田オーガナイザーより「建物外皮の熱物性とシステムデザイン」研究会の活動報告が行われた。これまでに 7 回の講演会を行い、建物に関する熱物性とデザインについて話題を提供してもらった。次年度の活動方針として、前年度とスタイルを踏襲しつつ WG の設立や印刷物として情報発信をしたい旨が説明された。研究会活動延長の申し出が行われ、承認された。

諸岡オーガナイザーより「生活懇話会」の活動報告ならびに活動計画について報告があった。

大久保オーガナイザーより新設される「低温環境における熱物性の基礎と応用(仮)」研究会について活動方針について説明があった。2 部制にして、1 部は学生など一般参加にし、第 2 部は専門家による議論の場にしたいとのこと。また、コンテストや他学会との協賛も計画しているとの説明があった。

大西オーガナイザーより新設される「宇宙材料の熱物性とシステムデザイン」研究会の活動方針について説明があった。宇宙材料の熱物性を議論する場が無いとため、宇宙材料の熱物性をキーワードに、次世代の宇宙材料の物性、測定技術、エネルギー変換デバイスの

議論や将来ミッションの熱設計の立案までやりたいとのこと。

#### **14. 「熱物性」投稿規程について**

吉田編集委員長より投稿規程を電子投稿向きに改定し、できれば会誌（2月号）とホームページに掲載したい旨説明があった。著作権については規程にある文面でやっていくが、他学会の著作権についてどのような取り扱いや提出書類があるか情報提供をして欲しいとのこと。また、会誌（2月号）の目次ならびに「熱物性」別刷申込書について説明があった。

#### **15. 会員異動、協賛・共催関係**

高橋前事務局担当より会員異動、協賛・共催関係の説明がされた。

#### **16. さーもふいじしすと頒布促進委員会**

牧野前会長より、25周年の寄付金を用いて「さーもふいじしすと」上製本を400部作製した。今年から、山田 純・前編集委員長を委員長とする頒布促進委員会を発足させたい旨説明があり承認された。

#### **17. その他**

荒木信幸・規約等整備担当の補佐役として高橋一郎・前副会長を副委員長に任命したいとの提案があり承認された。

以上